

産業廃棄物処理計画書

令和 6 年 6 月 5 日

福岡県知事 殿

提出者
住 所 <都道府県名>福岡県筑後市
熊野 1 7 1 7 - 1
氏 名 ヤンマー建機株式会社
代表取締役社長 工藤 龍
電話番号 0942-53-5111

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

事業場の名称	ヤンマー建機株式会社		
事業場の所在地	〈都道府県名〉福岡県筑後市熊野 1 7 1 7 - 1		
計画期間	令和6年4月1日 から 令和7年3月31日まで		
当該事業場において現に行っている事業に関する事項			
① 事業の種類	E. 製造業		
② 事業の規模	資本金 9, 0 0 0 万円 出荷額実績 4 9 2 億円		
③ 従業員数	8 8 1 名		
④ 産業廃棄物の一連の処理の工程	発生源	廃棄物	処理 処分
	製造工程	木くず ガラス・コンクリート 廃プラスチック 汚泥 廃油	粉砕 = 消却 燃え殻 = 埋立 粉砕 = 管理型埋立 圧縮 選別 = 燃料材料 油水分離 焼却 焼成 乾燥 = 再資源化 油水分離 調質 = 再資源化

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)
別紙 ヤンマー建機(株) 環境管理委員会体制図参照



産業廃棄物の排出の抑制に関する事項			
①現状	【前年度（令和 5 年度）実績】 別表－1 参照ください		
	産業廃棄物の種類		
	排出量	1,213 t	t
	産業廃棄物の種類		
	排出量	t	t
	産業廃棄物の種類		
	排出量	t	t
	産業廃棄物の種類		
	排出量	t	t
	産業廃棄物の種類		
	排出量	t	t
(これまでに実施した取組)			
②計画	【目標】 令和5年実績の10パーセント以上減		
	産業廃棄物の種類		
	排出量	t	t
	産業廃棄物の種類		
	排出量	t	t
	産業廃棄物の種類		
	排出量	t	t
	産業廃棄物の種類		
	排出量	t	t
	産業廃棄物の種類		
	排出量	t	t
(今後実施する予定の取組)			
- 産業廃棄物から有価物へのさらなる推進 - 廃木材の低減 木材によるパレットの見直し - 塗装工程から排出される廃酸の処理方法の見直し - 塗装工程からの異常廃液を排出しない			
産業廃棄物の分別に関する事項			
①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) - 再利用できるビニール類と油で汚れたビニール類の分別。 - 再利用できる金属とプラスチック付き金属の分別 - 有価物化できるプラスチックの分別		
②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 上記分別の徹底と混入防止		

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項

①現状	【前年度（令和 5 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	t	t
	産業廃棄物の種類		
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	t	t
	産業廃棄物の種類		
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	t	t
	産業廃棄物の種類		
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	t	t
	産業廃棄物の種類		
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	t	t
	産業廃棄物の種類		
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	t	t
	産業廃棄物の種類		
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	t	t
	産業廃棄物の種類		
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	t	t
	産業廃棄物の種類		
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	t	t
	産業廃棄物の種類		
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	t	t
	産業廃棄物の種類		
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		

自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項

①現状

【前年度（令和 5 年度）実績】

産業廃棄物の種類		
自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	t	t
自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	t	t
産業廃棄物の種類		
自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	t	t
自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	t	t
産業廃棄物の種類		
自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	t	t
自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	t	t
産業廃棄物の種類		
自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	t	t
自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	t	t
産業廃棄物の種類		
自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	t	t
自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	t	t

（これまでに実施した取組）

②計画

【目標】

産業廃棄物の種類		
自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	t	t
自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	t	t
産業廃棄物の種類		
自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	t	t
自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	t	t
産業廃棄物の種類		
自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	t	t
自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	t	t
産業廃棄物の種類		
自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	t	t
自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	t	t
産業廃棄物の種類		
自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	t	t
自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	t	t

（今後実施する予定の取組）

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項

①現状

【前年度（ 5 年度）実績】

産 業 廃 棄 物 の 種 類

自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った
産 業 廃 棄 物 の 量

t

t

産 業 廃 棄 物 の 種 類

自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った
産 業 廃 棄 物 の 量

t

t

産 業 廃 棄 物 の 種 類

自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った
産 業 廃 棄 物 の 量

t

t

産 業 廃 棄 物 の 種 類

自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った
産 業 廃 棄 物 の 量

t

t

産 業 廃 棄 物 の 種 類

自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った
産 業 廃 棄 物 の 量

t

t

産 業 廃 棄 物 の 種 類

自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った
産 業 廃 棄 物 の 量

t

t

(これまでに実施した取組)

②計画

【目標】

産 業 廃 棄 物 の 種 類

自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った
産 業 廃 棄 物 の 量

t

t

産 業 廃 棄 物 の 種 類

自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った
産 業 廃 棄 物 の 量

t

t

産 業 廃 棄 物 の 種 類

自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った
産 業 廃 棄 物 の 量

t

t

産 業 廃 棄 物 の 種 類

自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った
産 業 廃 棄 物 の 量

t

t

産 業 廃 棄 物 の 種 類

自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った
産 業 廃 棄 物 の 量

t

t

産 業 廃 棄 物 の 種 類

自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った
産 業 廃 棄 物 の 量

t

t

(今後実施する予定の取組)

産業廃棄物の処理の委託に関する事項 1枚目（1品目目から4品目目）

①現状	【前年度（ 5 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	全 処 理 委 託 量	1,213 t	t
	優良認定処理業者への 処理委託量の	1,096 t	t
	再生利用業者への 処理委託量の	t	t
	認定熱回収業者への 処理委託量の	t	t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への 処理委託量の	121 t	t
	産業廃棄物の種類		
	全 処 理 委 託 量	t	t
	優良認定処理業者への 処理委託量の	t	t
	再生利用業者への 処理委託量の	t	t
	認定熱回収業者への 処理委託量の	t	t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への 処理委託量の	t	t
(これまでに実施した取組)			
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	全 処 理 委 託 量	t	t
	優良認定処理業者への 処理委託量の	t	t
	再生利用業者への 処理委託量の	t	t
	認定熱回収業者への 処理委託量の	t	t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への 処理委託量の	t	t
	産業廃棄物の種類		
	全 処 理 委 託 量	t	t
	優良認定処理業者への 処理委託量の	t	t
	再生利用業者への 処理委託量の	t	t
	認定熱回収業者への 処理委託量の	t	t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への 処理委託量の	t	t
(今後実施する予定の取組)			

備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3)④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「―」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。

番号	産業廃棄物の種類	処理業者	優良認定 処理業者	マテリアル リサイクル	サーマル リサイクル	排出量(t)		管理票の 交付枚数
						令和5年度実績	令和6年度計画	
1	汚泥 (廃硝酸中和汚泥・切削廃水スラッジ・汚泥・電着スラッジ)	(株)ダイセキ	○	○		235.95	230	97
2	廃酸 (塗装前処理槽内洗浄液)	(株)ダイセキ	○	○		84.53	0	47
3	汚泥 (汚泥・排水処理スラッジ)	(株)フチガミ	○	○		158.97	155	60
4	木くず (廃材木・パレット類)	66産業 (株)			○	62.11	60	135
5	木くず (廃材木)	(有)エコアシスト	○	○		0.46	0.2	1
6	廃油 (切削廃油・廃油・電着廃液・ブース廃液・脱脂廃液)	(株)ダイセキ	○		○	16.74	10	37
7	廃油 (切削廃油・廃油)	岩野礦油(株)			○	41.67	40	17
8	金属くず (油圧ホース)	山光金属(株)		○		0.07	0.02	3
9	ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず (ガラス)	(株)大島産業	○			1.31	1	4
10	ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず (ガラス)	山光金属(株)		○		0.24	0.15	3
11	廃プラスチック類 (ブース汚泥・廃塗料・塗料カス・電着フィルター)	(株)ダイセキ	○	○		541.33	500	133
12	廃プラスチック類 (ブース汚泥・廃塗料・塗料カス)	(有)エコアシスト	○	○		39.76	35	33
13	廃プラスチック類 (金属付廃プラスチック)	(株)大島産業	○			6.14	5	13
14	廃プラスチック類 (油付プラスチック・ゴム類・油なしビニール類)	(株)フチガミ	○	○		10.60	10	25
15	廃プラスチック (金属付廃プラスチック)	(株)ダイワ		○		7.61	5	2
16	廃プラスチック (金属付廃プラスチック)	山光金属(株)		○		5.47	4	6
合計						1,212.96	1,055	---

令和5年度実績	
優良認定処理業者分	1,095.79
マテリアルリサイクル (再生利用)	1,084.99
サーマルリサイクル (熱回収利用)	120.52

令和6年度計画	
優良認定処理業者分	946
マテリアルリサイクル (再生利用)	939
サーマルリサイクル (熱回収利用)	110

ヤンマー建機(株) 環境管理委員会体制図



※環境管理委員会の開催

(1) 年4回開催する。(5月 9月 12月 3月) 又、必要に応じて臨時に委員会を開催することがある。

(2) 環境事務局は、委員長の指示を受け、各委員に通知する、

(3) やも得ない事由で委員会に出席できない場合は、代理者を任命し、その権限を委任することができる。

※環境管理委員会の任務

(1) 環境マネジメントシステムに係わる事業場の問題点を明確にして、その解決策について協議する

(2) 環境に関する基本方針、戦略及び重要施策の立案、審議とその全体的調整を図る。

(3) 環境マネジメントシステムを取り巻く周囲の状況や、社会環境・利害関係者の要求の変化等の情報交換を行ない、環境マネジメントシステムの円滑な対応に努める。